

平成 30 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO法人 よんなっせ山鹿	代表者	野田征男	法人・ 事業所 の特徴	地域の中で安心して暮らし続けられるよう、地域の力をつなぎ、結び付け、地域の人とともにどれだけ重度の認知症の人でも尊厳ある暮らしを実現できるように支援を行う。 可能な限り自らもてる力を発揮し、生きる力を生み出し、普通の暮らしを続けられるよう地域と事業所が連携して支援をしている。
事業所名	小規模多機能ホーム いつでんどこでん	管理者	川原秀一		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	5人	0人	0人	1人	0人	4人	1人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 専門用語等のわかりにくい表現ではなく、地域の誰が見てもわかるような記入の方法で評価していく。(継続事項) 玄関に表示してある職員一覧表に常勤・非常勤の別を記入し写真も添付する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回よりわかりやすい言葉での表現がされていて良かった。 玄関に職員の名簿・職種が書かれてある一覧表が掲示されていて良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> カタカナ文字の言葉がわかりにくい、自分たちもそれに慣れていく必要がある。 個人情報のこともあるので、スタッフの写真を掲示して良いものなのか一概には言えないところもある。しかし、顔と名前が一致しないこともあるので、あると助かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門用語等のわかりにくい表現ではなく、地域の誰が見てもわかるような記入の方法で評価していく。(継続事項)
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 看板の内容については引き続き運営推進会議等で検討していく。 サロンや予防教室を通して、高齢者以外の住民とも接点を持ち、地域の誰もが立ち寄りやすい環境を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 看板は今の程度の大きさでも十分だと思う。大掛かりにすることもないと思う。 予防教室や地域のサロンを通して、交流はできている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所に出向いた際、嫌な臭いや不快な音など気になることはない。 玄関に鍵がかかっていることはないが、鍵をかけてしまうと、災害時など被害を大きくさせてしまう。 カラオケセットを置いたらどうか？→近隣への配慮が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> サロンや予防教室を通して交流は継続し、高齢者以外の地域住民も立ち寄りやすい事業所となるよう環境作りを行う。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 大道校区内に広報誌をどのようにして配布するか、今年度も検討していきたい。 地域認知症サポートリーダーの方たちの活動報告を行い、小学校 	<ul style="list-style-type: none"> 広報は2か月に1回配布されている。 大道地区へ配布については、配布の方法が難しくできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌の大道地区での回覧は定期的に行うのは難しいのでは？→世帯数が多く、回覧も難しい。 広報誌に利用状況を載せてみたはどうか？→検討事項 	<ul style="list-style-type: none"> 大道校区内に広報誌をどのようにして配布するか、内容についても今年度も検討していきたい。 地域の老人会や子供との交流について、地域の方と連携を図りな

	や会合等での認知症出前講座を今年度も引き続き開催する。		<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の色合いをもう少し工夫してほしい。 ・地域の老人会の活動がへってきている。 ・地区の子供は他の地区に比べ多いが、最近はあまり見かけないし、お年寄りとの交流も少ない。 ・事業所に相談したいことがあっても、誰に相談していいかわからないと地域の方に尋ねられたことがある。→事前に電話にて連絡してもらおうと担当者が対応する。 	がら支援していけるよう努める。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の方が住み慣れた場所で暮らしていけるよう、地域と連携しながら支援していけるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に参加することで利用者の状況などが把握できることで、関わり方を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ地域の方のニーズに応えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の方が住み慣れた場所で暮らしていけるよう、地域と連携しながら支援していけるよう努める。(継続事項)
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議だけではなく、事業所外の集まりの中で心配事・困り事を相談できる事業所となるよう努める。 ・運営推進会議だけではなく地域の行事などを通じて、職員の顔や名前を覚えてもらえるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの顔に見覚えはあるが、名前が一致しない。 ・運営推進会議以外でも気軽に相談ができた。→地域の方の支援に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の資料に、広報誌をつけてもらおうと、事業所のことがわかりやすい。 ・新しく入ったスタッフについては、紹介をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を活用し、地域の方の困り事・心配事の事例検討を行うよう努める。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災組織と連携し、訓練等に参加することで緊急時に対応できるように努める。 ・備蓄については引き続き検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災訓練の実施日急遽決定したこともあり、周知徹底が不十分だった。 ・今年度は大きな災害もなく、緊急避難もなく良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の防災訓練の実施日を事前にお知らせしてもらえば参加したい。 ・地域・行政区の備蓄については？→地区に備蓄できる場所がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災組織と連携し、訓練等に参加することで緊急時に対応できるように努める。(継続事項) ・備蓄については引き続き検討していく。